

令和 8 年度 マダイ日本海西部・東シナ海系群資源評価会議 議事概要

日程：令和 8 年 8 月 4 日（火） 9 時半～12 時

会場：水産研究・教育機構長崎庁舎中会議室 + MS teams オンライン会議

参加者：外部有識者、資源評価参画機関（以下、参画機関）、水産研究・教育機構（以下、機構）

概要 令和 8 年度マダイ日本海西部・東シナ海系群の資源評価（案）について、参画機関を代表して機構担当者より説明を行い、その内容について協議した。会議出席者による検討・議論の結果、公表に向けて体裁や表現などの修正を行うものの、資源評価結果として承認された。

令和 8 年度マダイ日本海西部・東シナ海系群の資源評価（案）についての議論
機構担当者より、参画機関を代表して資源評価報告書（案）の説明を行った。

《主な議論と結果》

- ・昨年度評価に比べて資源量、親魚量、加入量などが減少していることについて、直近の漁獲量が少なかったこと、CPUE が低下したこと、1 歳魚の漁獲尾数が少なく加入が少ないと判断されたことが原因であることが議論された。
- ・プラスグループの漁獲圧については、機構担当者よりプラスグループの F （漁獲係数）に $0.7 \sim 0.9$ の係数を乗じた場合の資源量などの傾向を確認したところ、プラスグループの F を下げることで資源量や親魚重量は増加し、再生産関係も変わることが報告された。
- ・資源量指標値について、現状では島根県の定置網 CPUE を標準化して用いているが、ほかの海域の様々な CPUE を計算するようデータを収集していることが報告された。
- ・資源評価報告の表現について、 β の値を細かく区切るのではなく、 0.05 刻みでよいのではないかとの意見がだされ、修正後に関係機関に確認することとなった。
- ・以上の議論を経て提案された案は承認された。

有識者講評：

- ・昨年度の評価から 1 年データを追加することで、資源評価結果がかなり変わったことが確認できた。
- ・その結果の解釈を通じて、VPA を用いた資源評価方法に関する理解が深まり、様々なパラメーターや漁獲データの掘り下げが必要であると考えられた。
- ・今後、資源評価を進めるにあたって、高度な解析方法に移行する場合には、このような経験を通して変更の効果を具体的に確認しながら、関係機関の理解を得ることが大切である。
- ・精度の高いデータを収集することに対して意欲を持って取り組んでいただきたい。